

(二) エクステンションセンター

本学エクステンションセンターは、学生・生徒の資格取得支援および教育支援、地域社会への生涯学習支援を目的として、平成 13 年キャンパス内に設置された。その後、第Ⅱ期施設整備計画により、平成 16 年 3 月末に現在の本部棟に移転した。その教室構成等を**巻末資料 21**に示す。

現在同センターでは、資格取得支援講座、情報関連講座、文化教養講座の 3 区分の講座を、春夏、夏期集中、秋冬の 3 期に分けて開講している。各開講講座の概要は、次のとおりである。

(イ) 資格取得支援講座

主に在学生に対し、情報関連、語学、公務員試験対策等の講座を展開しており、言わば学内 W スクールとして位置づけている。その講師としては、合格率アップを図るため専門学校の講師が担当し、受講料については市価 1/2~1/5 に抑え学生に対して受講しやすい環境を作っている。

(ロ) 情報関連講座

同センター開設前から実施してきた公開講座を引き継いだ夏期集中講座の他、年間を通じた春夏講座・秋冬講座にて開講している。講師は従来、短期大学部教員・職員で担当してきたが、ここ 2~3 年は昼間の開講比率が高くなったため、情報処理センターの職員やエクステンションセンターのインストラクターの担当比率が高まっている。受講料は同センター開設前の公開講座開講時より多少高くなっているものの、依然市価に比べ低い水準を維持している。

(ハ) 文化教養講座

語学、健康、趣味、教養等幅広い展開を行っている。中には、「博多座を『学ぶ』『知る』『楽しむ』」等のユニークな講座も開講し、さらに外部講師が行う趣味教養講座も多く開講され、多くの受講者から好評を得ている。受講料は、街中にある一般の文化講座より低く抑えている。また、大学・短期大学部教員が、教育研究成果を一般市民に分かりやすく紹介する教養講座を、同センターの会員に対し無料で開講している。

受講生募集については、春夏・秋冬・夏期集中講座開講に合わせ 3 回リーフレットを作成、近郊 15 万世帯に新聞折り込みを行い福岡工業大学の PR を行っている。特に、春夏講座・秋冬講座に関しては、詳しい内容のガイドブックを年 2 回作成し、会員に配布している。また、在学生に対しては、資格取得支援講座のリーフレットを作成・配布し、特に、新入生に対しては、入学直後のオリエンテーションに於いて、資格取得支援講座のガイダンスを実施している。このような取り組みを行った結果の各講座の実績を**巻末資料 22**に示す。

なお運営を全学的に審議する機関としてエクステンションセンター運営委員会がある。構成員は、センター長、センター事務長、大学の各学部から選出された教員 3 名、短期大

学部から選出された教員 1 名、附属城東高校から選出された教員 1 名、教務課、就職課、広報課、管財課、情報処理センター管理室各課から選出された職員 5 名の計 12 名から成っている。

開設 4 年目を迎え、運営についてはかなりの改善がなされ、現在開講している講座、事務局運営についても一定評価が出来るものの、講座構成、講師等についての課題も多い。

受講生の声を聞く仕組みとして同センターでは、毎期毎に全受講者に対し属性、講座満足度、運営に対する満足度を把握するためアンケートを行っている。平成 15 年度秋冬講座のアンケートの具体的な結果を示すが（巻末資料 23）、これらを要約すると、学外の一般受講者は講座内容、講師、受講料、事務局対応いずれも満足しているとの結果を得ている。

一方、在学生に対する資格取得講座については、講座内容、講師、事務局対応についての満足度は高いが、受講料については市場の受講料に比して低く抑えているものの、学生は割高感を感じている。

講座区分別に課題としてあげられるのは、学習支援講座の不足である。当初の計画では、「大学入学前」から「大学」への橋渡しとして本学での正規授業を受けるに必要な基礎学力を修得させる講座等を設ける予定であったが、上述のように学部・学科等で何らかの形で実施されていること、同センターとしての開講の環境が整わないこと等の理由により未だ実施していない。しかしながら、丁寧な教育を実現するため、関係部署との調整により開講に向けた準備を行う。

また、ここ数年情報関連講座の受講者数の減少も課題の一つである。その理由としてまず、近年の急速なパソコン普及により、基礎的なコンピュータ操作をマスターしている人の比率が大幅に高まったことが挙げられる。また、一般の市民講座の増加、専門学校の講座開設等により、学ぶ場が急増していること等も考えられる。同センターとして今後、コンピュータ技術の次のステップ、また新ジャンルの講座開設を進めていくこと、あわせて文化教養講座等のその他の講座も含め、総合的な観点から検討し満足度の高い公開講座の実現を図っていくことが必要である。

さらに、学内講師の比率が低いことである。開設当時、情報関連の公開講座は併設の短期大学部が核となって運営していたが、短期大学部の事情等の理由により、現在は一部の教員が担当するのみに止まっている。同センターに学内講師をどう位置付けるかが、これからの課題である。

このように、今後への課題はあるものの、エクステンションセンターの設置により、本学の社会に開かれた窓がさらに大きくなり、大学設置の目的の一つである教育における社会貢献できることは、その大きな長所といえる。

上述したいくつかの課題は、むしろ同センターが今後発展するためのよい材料である。特に、本学学生に対する学習支援講座については、来年度から IT 関連講座と就職支援講座を開設すべく現在検討中である。さらに今後は、当初のエクステンションセンター設置の趣旨で掲げられた「学園の充実した教育施設、設備および長年の努力によって蓄えられた

技術、知識などの教育的財産を広く学内外に開放し高等教育機関としての社会的役割の充実向上を図る」ことを実現するため、全教職員が趣旨を十分に理解し、多くの教職員がいろんな分野での生涯学習を展開すると共に、「丁寧な教育システムの確立」の実現のため、就職支援、学習支援のサポート等の体制を強化することにより、更なるエクステンションセンターの充実を図っていくことが必要であろう。